



2020年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2019年8月7日

上場会社名 株式会社ヨコオ 上場取引所 東
 コード番号 6800 URL https://www.yokowo.co.jp/
 代表者 (役職名) 代表取締役兼執行役員社長 (氏名) 徳間 孝之
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役兼執行役員常務 (氏名) 横尾 健司 (TEL) 03-3916-3111
 四半期報告書提出予定日 2019年8月7日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第1四半期の連結業績(2019年4月1日~2019年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第1四半期	14,975	13.1	1,175	86.3	932	11.6	694	20.1
2019年3月期第1四半期	13,235	7.4	630	2.2	835	21.7	578	10.4

(注) 包括利益 2020年3月期第1四半期 208百万円(△56.3%) 2019年3月期第1四半期 478百万円(△40.9%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第1四半期	34.32	34.21
2019年3月期第1四半期	28.60	28.49

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第1四半期	43,545	24,413	56.0
2019年3月期	42,781	24,486	57.2

(参考) 自己資本 2020年3月期第1四半期 24,397百万円 2019年3月期 24,473百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	12.00	—	14.00	26.00
2020年3月期	—	—	—	—	—
2020年3月期(予想)	—	14.00	—	14.00	28.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日~2020年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	29,500	10.7	2,150	62.3	1,800	3.3	1,300	1.0	64.23
通期	58,500	6.8	4,050	33.7	3,700	12.6	2,650	20.0	130.92

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細につきましては、四半期決算短信 (添付資料) 8 ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2020年3月期1Q	20,849,878株	2019年3月期	20,849,878株
② 期末自己株式数	2020年3月期1Q	608,920株	2019年3月期	613,320株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2020年3月期1Q	20,238,013株	2019年3月期1Q	20,229,475株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の本資料に記載されている業績見通し等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信 (添付資料) 4 ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

2 当社の四半期連結財務諸表に掲記される科目その他の事項の金額については、従来、千円単位で記載しておりましたが、当第1四半期連結会計期間及び当第1四半期連結累計期間より百万円単位に変更しております。なお、比較を容易にするため、前連結会計年度及び前第1四半期連結累計期間についても百万円単位に組替え表示しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計方針の変更)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における売上高は、すべてのセグメントが前年同期比で増収となり、14,975百万円（前年同期比+13.1%）となりました。営業損益につきましては、前年同期比で車載通信機器セグメントが減少となったものの、回路検査用コネクタ及び無線通信機器の両セグメントが大きく増加したことから、1,175百万円の利益（前年同期比+86.3%）と大幅な増益となりました。経常損益につきましては、前年同期の為替差益200百万円計上に対して円高による為替差損242百万円を計上したものの、営業増益により、932百万円の利益（前年同期比+11.6%）となりました。親会社株主に帰属する四半期純損益につきましては、経常増益及び税金費用負担率の低下などにより、694百万円の利益（前年同期比+20.1%）と、前年同期比で大幅な増益となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

① 車載通信機器

当セグメントの主要市場である自動車市場は、米中貿易摩擦の長期化の影響などから米国／中国の販売台数がともに減少し、アセアン市場では需要の増減が入り混じった結果となりました。国内におきましては、登録車が販売増に転じるとともに、軽自動車も堅調に推移した結果、新車販売台数は前年同期比でわずかに上回りました。

このような状況の中、主力製品であるシャークフィンアンテナ／GPSアンテナをはじめとする自動車メーカー向けアンテナは、国内・海外ともに販売が伸長し、前年同期を上回りました。また、ETCアンテナなど国内向けを主とする製品については、新規受注の獲得などにより前年同期を上回りました。

この結果、当セグメントの売上高は9,864百万円（前年同期比+6.9%）と、前年同期比で増収となりました。セグメント損益につきましては、部材逼迫による調達遅れから製品輸送費用が増加したことに加え、業量の拡大に伴う製造労務費が膨らんだことなどにより、105百万円の利益（前年同期比△28.2%）となりました。

② 回路検査用コネクタ

当セグメントの主要市場である半導体検査市場は、スマートフォン向けの成長減速に加え、メモリー需要の減少・低迷が続いているものの、IoT／車載／ビッグデータ／AIといった成長分野での需要増加により、中長期的には成長が継続するものとみられております。

このような状況の中、当社グループの主力製品であるBGAソケット等半導体後工程検査用治具の販売は、メモリー分野を中心に需要が減速した前年同期とは対照的に、非メモリー分野での大幅な受注増などにより、前年同期を大幅に上回りました。また、半導体前工程検査用治具の販売も、周辺機器を含めてワンストップソリューションでサービスを提供するターンキービジネスの受注獲得などにより、前年同期を上回りました。

この結果、当セグメントの売上高は2,957百万円（前年同期比+29.9%）と、前年同期比で大幅な増収となりました。セグメント損益につきましては、増収による増益、比較的利益率の高い製品の売上比率上昇及び生産設備の稼働率上昇などにより、542百万円の利益（前年同期比+207.0%）となりました。

③ 無線通信機器

当セグメントの主要市場である携帯通信端末市場は、スマートフォンの販売が減少傾向にある一方、ウェアラブル端末は多様化・高機能化により今後の成長が見込まれております。POS端末市場は、物流／製造を始めとする幅広い業界において、情報管理による業務効率化実現の観点から着実な成長を続けております。また、ヘルスケア／産業機器などの他市場も成長が期待されております。

このような状況の中、微細スプリングコネクタを中核製品とするファインコネクタ事業におきましては、POS端末／ヘルスケア市場向け販売の堅調な推移に加え、ウェアラブル端末向け販売の伸長や業務用端末向けのスポット的な受注増などにより、売上高は前年同期を上回りました。

当セグメントに含めておりますメディカル・デバイス事業につきましても、ユニット製品販売が国内・海外ともに堅調に推移したことに加え、部品販売が増加したことにより、売上高は前年同期を大幅に上回りました。

この結果、当セグメントの売上高は2,153百万円（前年同期比+24.5%）と、前年同期比で大幅な増収となりました。セグメント損益につきましては、増収による増益、比較的利益率の高い製品の比率上昇、メディカル・デバイス事業における歩留の向上などにより、525百万円の利益（前年同期比+71.3%）となりました。

(事業セグメント別連結売上高)

(単位：百万円、%)

	前第1四半期 自2018年4月 至2018年6月	前四半期 自2019年1月 至2019年3月	当第1四半期 自2019年4月 至2019年6月	前年同期比	前四半期比
	売上高	売上高	売上高	増減率	増減率
車載通信機器	9,228	9,831	9,864	+6.9	+0.3
回路検査用コネクタ	2,276	2,418	2,957	+29.9	+22.3
無線通信機器	1,729	1,810	2,153	+24.5	+19.0
合計	13,235	14,059	14,975	+13.1	+6.5

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における資産は、現金及び預金増加595百万円、有形固定資産増加345百万円などにより、43,545百万円（前連結会計年度末比764百万円の増加）となりました。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における負債は、仕入債務増加615百万円などにより、19,132百万円（前連結会計年度末比837百万円の増加）となりました。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産は、親会社株主に帰属する四半期純利益694百万円の計上、為替換算調整勘定減少447百万円、配当金の支払283百万円などにより、24,413百万円（前連結会計年度末比73百万円の減少）となりました。

(自己資本比率)

当第1四半期連結会計期間末における自己資本比率は56.0%（前連結会計年度末比△1.2ポイント）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

第2四半期連結累計期間(上期)の業績予想につきましては、当第1四半期連結累計期間の実績及び直近の受注見通しを踏まえ、セグメント別売上高を下表のとおり修正いたします。営業利益につきましては、回路検査用コネクタセグメントにおける売上高伸長に伴う増益などから、上方修正いたします。経常利益及び親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては、想定為替レートを円高方向に変更したうえで、為替差損350百万円を見込み、下表のとおり修正いたします。通期の業績予想につきましても、想定為替レート変更に伴う円貨換算額減少などから、下表のとおり修正いたします。

なお、想定為替レートは、本年8月以降当期末まで1米ドル=106円(当初予想は1米ドル=110円)と変更しております。

第2四半期連結累計期間(2019年4月1日～2019年9月30日)

(単位:百万円、%)

	当初予想 (2019年5月13日公表)	修正予想	増減	増減率
売上高	28,000	29,500	+1,500	+5.4
車載通信機器	19,300	19,500	+200	+1.0
回路検査用コネクタ	4,750	5,800	+1,050	+22.1
無線通信機器	3,950	4,200	+250	+6.3
営業利益	1,650	2,150	+500	+30.3
経常利益	1,600	1,800	+200	+12.5
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,100	1,300	+200	+18.2

通期(2019年4月1日～2020年3月31日)

(単位:百万円、%)

	当初予想 (2019年5月13日公表)	修正予想	増減	増減率
売上高	58,000	58,500	+500	+0.9
車載通信機器	39,500	39,000	△500	△1.3
回路検査用コネクタ	10,000	11,000	+1,000	+10.0
無線通信機器	8,500	8,500	—	—
営業利益	3,650	4,050	+400	+11.0
経常利益	3,600	3,700	+100	+2.8
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,500	2,650	+150	+6.0

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,189	7,784
受取手形及び売掛金	11,581	11,499
商品及び製品	4,387	4,416
仕掛品	392	459
原材料及び貯蔵品	3,392	3,301
その他	1,387	1,481
貸倒引当金	△4	△4
流動資産合計	28,327	28,938
固定資産		
有形固定資産	10,858	11,204
無形固定資産		
その他	717	736
無形固定資産合計	717	736
投資その他の資産		
退職給付に係る資産	15	20
その他	2,861	2,645
投資その他の資産合計	2,877	2,666
固定資産合計	14,453	14,606
資産合計	42,781	43,545
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,019	6,634
短期借入金	3,539	3,472
未払法人税等	330	207
賞与引当金	540	400
製品保証引当金	364	—
その他	3,327	4,160
流動負債合計	14,121	14,876
固定負債		
長期借入金	3,400	3,400
退職給付に係る負債	173	177
その他	598	678
固定負債合計	4,172	4,255
負債合計	18,294	19,132
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,996	3,996
資本剰余金	3,981	3,981
利益剰余金	16,197	16,605
自己株式	△719	△714
自己株式申込証拠金	0	0
株主資本合計	23,456	23,868
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	355	324
為替換算調整勘定	525	78
退職給付に係る調整累計額	135	126
その他の包括利益累計額合計	1,017	528
新株予約権	7	7
非支配株主持分	5	8
純資産合計	24,486	24,413
負債純資産合計	42,781	43,545

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年6月30日)
売上高	13,235	14,975
売上原価	10,856	11,786
売上総利益	2,379	3,188
販売費及び一般管理費	1,748	2,013
営業利益	630	1,175
営業外収益		
受取利息	2	4
受取配当金	17	18
為替差益	200	—
その他	17	12
営業外収益合計	237	35
営業外費用		
支払利息	21	29
為替差損	—	242
その他	10	6
営業外費用合計	32	278
経常利益	835	932
特別利益		
固定資産売却益	0	0
特別利益合計	0	0
特別損失		
固定資産除却損	2	0
製品保証費用	—	14
特別損失合計	2	15
税金等調整前四半期純利益	833	917
法人税、住民税及び事業税	92	190
法人税等調整額	162	29
法人税等合計	254	219
四半期純利益	579	697
非支配株主に帰属する四半期純利益	0	3
親会社株主に帰属する四半期純利益	578	694

四半期連結包括利益計算書
第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年6月30日)
四半期純利益	579	697
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△62	△31
為替換算調整勘定	△19	△447
退職給付に係る調整額	△19	△9
その他の包括利益合計	△101	△488
四半期包括利益	478	208
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	477	206
非支配株主に係る四半期包括利益	0	2

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

米国を除く在外連結子会社では、当第1四半期連結会計期間の期首から「リース」(IFRS第16号)を適用しています。IFRS第16号の適用にあたっては、経過措置として認められている当該会計基準の適用による累積的影響を適用開始日に認識する方法を採用しています。

当該会計基準の適用に伴い、当第1四半期連結貸借対照表において有形固定資産が433百万円、流動負債が161百万円、固定負債が121百万円それぞれ増加し、投資その他の資産が151百万円減少しております。なお、当第1四半期連結損益計算書への影響は軽微です。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	車載通信機器	回路検査用 コネクタ	無線通信機器	計		
売上高						
外部顧客への売上高	9,228	2,276	1,729	13,235	—	13,235
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	31	—	31	△31	—
計	9,228	2,308	1,729	13,266	△31	13,235
セグメント利益	147	176	306	630	0	630

(注) 1 セグメント利益のその他0百万円は、主に親子会社間の内部取引の相殺であります。

2 セグメント利益は四半期連結損益計算書の営業利益との調整を行っています。

当第1四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	車載通信機器	回路検査用 コネクタ	無線通信機器	計		
売上高						
外部顧客への売上高	9,864	2,957	2,153	14,975	—	14,975
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	41	—	41	△41	—
計	9,864	2,998	2,153	15,016	△41	14,975
セグメント利益	105	542	525	1,173	2	1,175

(注) 1 セグメント利益のその他2百万円は、主に親子会社間の内部取引の相殺であります。

2 セグメント利益は四半期連結損益計算書の営業利益との調整を行っています。